

創立 120 周年記念

秩父鉄道 新ロゴマーク決定

沿線を流れる荒川の色をコーポレートカラーに

秩父鉄道株式会社（本社：埼玉県熊谷市、代表取締役社長：大谷 隆男）では、2019年11月8日に創立から120年を迎えることを記念し、秩父鉄道の新たなロゴマークを制定します。あわせて創立120周年のロゴマークも制定し、今年には記念事業として各種イベントを実施予定です。

記

1. 秩父鉄道「新ロゴマーク」

1) デザインコンセプト

秩父鉄道は荒川とともに。

荒川と並走し、橋を渡り、人々を観光地へ。

その川の流れと水しぶき、長瀬の岩畳。

それらをシンプルな図案・色合いで「秩父の表情」として表現しました。

CHICHIBU頭文字の「C」をモチーフにしたシンボルマーク。

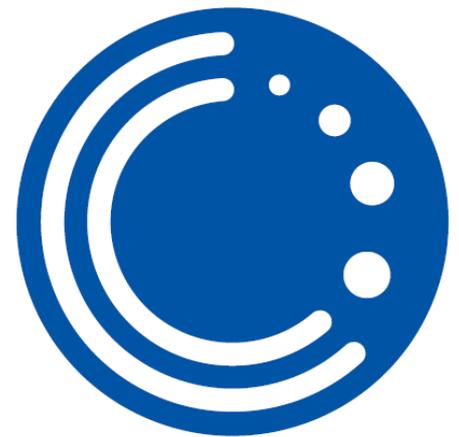
鉄道の「車輪」もイメージさせます。

また、「人の笑顔」も図案に隠されており、「喜んでいただく鉄道」を表しています。

沿線地域の人々と歩んできた鉄道、地域をつなぐ鉄道。

これからも地域の未来を切り開く鉄道でありたいという

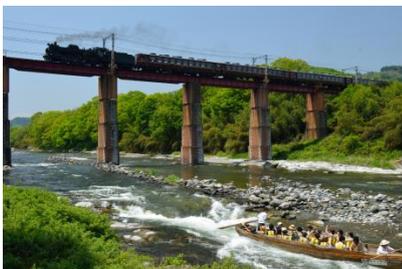
思いを込めたロゴマークです。



秩父鉄道

CHICHIBU RAILWAY

秩父鉄道「新ロゴマーク」イメージ

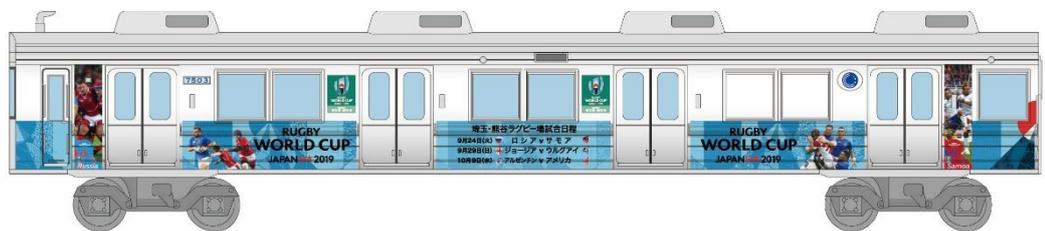


2) 使用開始日

2019年4月1日（月）～予定

☆先行して、3月2日（土）に誕生するラグビーワールドカップ2019™ラッピングトレインの車体に、新規ロゴマークを使用します。

3) 活用イメージ



ラッピングトレインイメージ

2. 秩父鉄道「創立 120 周年」記念事業

1) 創立 120 周年記念ロゴマーク

「えがおをのせて、その先へ」をキャッチフレーズに、秩父鉄道の顔でもある「SL パレオエクスプレス」からえがおが溢れ出てくるようなデザインとなっています。



秩父鉄道創立 120 周年ロゴマークイメージ

< 秩父鉄道の社歴 >

1899 年（明治 32 年）11 月、「上武鉄道株式会社」として設立し、1901 年（明治 34 年）10 月、熊谷～寄居間（18.9 キロ）が開業。その後、区間が逐次延長され、1930 年（昭和 5 年）3 月、秩父本線 羽生～三峰口間全線が開業しました。1916 年（大正 5 年）3 月、埼玉県大宮町（現在の秩父市）が秩父町に名称変更されたため、社名も「秩父鉄道株式会社」に改称しました。

現在は、秩父本線 羽生～三峰口間（71.7 キロ）と貨物専用の三ヶ尻線 武川～熊谷貨物ターミナル間（7.6 キロ）から成り、営業キロ 79.3 キロは地方民鉄の中ではトップクラス。沿線は寄居を境に、東は関東平野、西は秩父盆地と、平野部と山間部の二つの顔を持ちます。

1988 年（昭和 63 年）から運行を開始した「SL パレオエクスプレス」は、都心から日帰りでも利用できる観光列車として 2017 年度（平成 29 年度）に運行 30 周年を迎え、沿線地域や企業との連携イベント等で他の SL 列車にはない話題作りに努めています。また、「長瀨ラインくんだり」や「宝登山小動物公園」など長瀨地域の観光施設を運営するほか、沿線地域を中心とした不動産事業も展開しています。



これまでの秩父鉄道ロゴマーク

◆この資料に関するお問合せ

秩父鉄道株式会社 企画部 梅澤 TEL048-523-3313